

漂着ごみから生まれた楽器演奏で資源の大切さを発信する 7 名

## 協会会長賞 徳島県 松茂町立長原小学校

吉野川河口にできた三角州地帯に位置する同校。紀伊水道が目の前に広がる豊かな環境を生かした活動を行っている。中でも、校区にある長原漁港の清掃は、漁協や自治体と連携しながら 40 年以上続く伝統行事だ。また、同校の裏手に横たわる海岸でも、地元企業などと協力して年 2 回清掃を実施してきた。しかし、過疎化に伴い、数年前から学校単独活動になった。それを契機に、身の回りの環境問題を、改めて自分事として考える取り組みに深化させている。

まず児童は、繰り返し使えるごみ箱を手づくりし、海岸清掃時に持参。朝の時間を清掃にあて、自主的に海岸に向かうようになり、その回数が徐々に増えていった。回収ごみは、重さを量って記録しながら、分別作業を実施。そうした過程で、ごみ回収にどれだけ熱心に取り組んでも、ごみがなくなる現状を目の当たりにした児童は、広く発信したいという思いが高まった。「上勝町ゼロ・ウェイストセンター」を見学し、徹底したごみ分別に刺激を受けていた時期とも重なり、回収した漂着ごみをそのまま生かしてアピールしようと、「ごみアート」を開始。海岸に漂着した空き缶や流木などを丁寧に洗浄し、イメージを膨らませて作品を製作、実際に松茂町のイベントで展示紹介した。反響を呼び、手ごたえを感じた児童は、ごみアートにメッセージ性を加えた「ごみで楽器製作」に挑戦。これらのプロジェクトにおいて、欠かせないのが外部講師だ。児童や教職員には難しい領域を担当してもらい、多様なヒントをもとに新しい展開につなげていった。

大学生とともに児童の指導に尽くした四国大学 経営情報学部・経営情報学科の鈴鹿 剛准教授は、「季節で変化する漂着ごみの実態を把握し、そのごみで楽器を製作しながら自分たちの思いを形にできたのは、大きな自信につながったはず」と効果を語る。

楽器完成後は、アーティストとともにセッションを行った。ごみから奏でられる音色を耳にした驚きや感動を胸に刻んだ児童は、後日開催された「とくしま環境学習フォーラム」で、活動成果を発表した。

同校の児童数は現在 7 名。数年後には廃校の可能性もある小規模校だが、海岸清掃を通じて成長した 7 名の活動は、地域内外に大きなインパクトをもたらしている。



### 徳島県 松茂町立長原（ながはら）小学校

学校長：尾形 徳康（おがた のりやす）

児童数：7 名(2023 年 11 月末現在)

住所：徳島県板野郡松茂町長原 530 番地

電話：088-699-2750

アクセス：「徳島阿波おどり空港」から車で約 10 分

上：手づくりのごみ箱を持ち、漂着ごみを回収する児童、2 左：回収したごみを量り、記録する作業、2 右：「上勝町ゼロ・ウェイストセンター」を見学し、ごみ分別に関心を寄せる、3 左：大学生らの協力でごみから楽器を製作、3 右：活動成果を大勢の観客の前で発表、下：ごみを使った楽器でアーティストたちとセッション